書もまた楽し（その 9）

土崎病院友の会
会長　藤原　毅

今年は、近年では珍しい程、安定した天候の初春でした。皆様もよいお正月をお過ごしになられたことと存じます。今年は、初春の天候のような安定した一年でありたいですね。
文房四宝（書の筆、墨、硯、紙）説明などを主体にスタートした「書もまた楽し」も今号でその 9 を数えることとなりました。今号は、今年の干支文字、亥又は猪のつく用語や亥猪に関する故事ことわざのほんの一部に加えて 6 号から 12 年ごとに巡ってくる「亥年」の流行語と出来事（明治 8 年から平成 7 年まで）などについて適宜述べます。また亥年生まれの方（一部）を紹介し、思い出に資したいと思います。
今年は「己亥（つちのとい）」です。亥は十二支の 12 番目、方位は北から 30 度西の北北西の方角、時刻は現在の午後 8 時頃、またはその前後 2 時間を亥の刻と呼ばれております。月は旧暦 10 月、動物は猪が充てられております。因に東の方位は卯、西は酉、南は午、北は子となります。
ここで文字に関するクイズをいたします。下の二つの図は古代文字です。どう読み、どう書いた文字でしょうか。ヒントは二つの文字は同じ読みをすることがあります。答えは次のページの末尾にあります。
◎亥・猪のつく用語・古学・諺
「亥の子（いのこ）」陰暦 10 月の亥の日。新暦では 11 月の 13 日頃。江戸時代にはこの日から炬燵を開いて、亥の刻に「亥の子の祝」亥の子餅を食べる祝いが行われたという。「猪の子雲（いのこぐも）」猪の子どものようにまだらで種々の色をした雲。「猪の子突（いのこずき）」狩人が猪を仕留めたときに、集まって猪の四足を捉えて胴上げすること。「猪武者（いのししむしゃ）」前後の考えもなく無鉄砲に敵に突進する武者。「猪口才（ちょこざい）」小賢しくて生意気な者を卑していう。「猪勇（ちょゆう）」向こう見ずの勇気。「豕（いのこ）を抱いて臭きを知らず」豕は猪の古称。自分の欠点や醜さは自分ではなかなか気づきにくいことのたとえ。「豕を憎みて臭きを愛す」大元を憎んでいるのにそれから派生する事柄には寛大である。不合理で一貫しない考えのたとえをいう。
◎亥年の流行語と出来事など。
1875 年（明治 8 年）
（出来事など）横浜と上海間の航路が開始した。ロシアと樺太千島交換条約調印、英公使が小笠原諸島を日本領として承認した。東京―青森－津軽海峡－北海道の電信線が完成した。当時、洋書の翻訳料（10 行、20 字）は 1 円、同直訳料は 25 銭であった。
（流行語）「巡査」邏率に代わる職名として東京で統一され、その年の秋には全国的に改称された。「おまわりさん」巡査の別名として使われた。「社会」ソサエティーの翻訳語とし

てできた新語。（この年に生まれた人）柳田国男（民俗学者）、長谷川如是閑（評論家）、上村松園（日本画家）など。
1887 年（明治 20 年）
（出来事など）鹿鳴館で仮装舞踏会が開催され、世論は欧化主義と非難した。4 月のついたちだけウソをついてもいいという欧米の「4 月馬鹿」の風習を郵便報知が紹介した。電信局が海外電報の取り扱いを開始した。自転車、トランプ、花札、カルタ、ショールが流行。銀座煉瓦街の街路樹の柳への植え替えが終わり「銀座の柳」が完成した。従来は主に観賞用に栽培されていたトマトが、この頃から食用品として扱われ始める。
（流行語）「鹿鳴館時代」洋式の大社交場として建てられた鹿鳴館でワルツを踊る仮想舞台が毎夜のように開催され、欧化をめざす種々な改良運動を誘発した。（生まれた人）中山晋平（作曲家）、片山哲、芦田均（以上政治家）、山本有三（作家）など。
1899 年（明治 32 年）
（出来事など）東京－大阪長距離電話が開通した。日英通商航海条約が発効した。「反省雑誌」の題を「中央公論」を改題した。最初の日本製映画を公開した。節米社は駒田好洋、入場料は上等 50 銭、土間 20～30 銭。東京で初のビヤホールが開店（7 月）。値段は半リーテル(リットル)10 銭、4 半リーテル 5 銭。年賀郵便の特別取扱制度が実施された。ショールや三つ折り抱えカバンが流行した。
（流行語）「ビヤホール」ビール専門店が銀座に開店して大好評となった。「弁士」流動弁士、略して流弁といった。
（この年に生まれた人）池田勇人（政治家）、宮本百合子、川端康成、尾崎一雄（以上作家）、田河水疱（漫画家）、大辻史郎（漫談家）、萩原朔太郎（詩人）、笹川良一（日本船舶振興会会長）など。
1911 年（明治 44 年）
（出来事など）速達郵便が開始。改正日米通商航海条約が実施された。関税自主権が確立、日仏通商航海条約が調印された。警視庁特別高等課が設置された。下関－門司間貨車航送が開始された。夏目漱石が博士号を辞退した。帝国劇場が開場、東京市電気局による電車経営が開始、生糸生産高が中国を抜いて世界第一位になる。毛皮のオーバー、ラクダの帽子が流行した。
（流行語）「元始女性は太陽であった」新しい女に目覚めた女性たちで発刊した女性雑誌「青踏」の巻頭に揚げた宣言文。
（生まれた人）岡本太郎（画家）、日野原重明（医師）、藤山一郎（歌手）、椎名麟三（作家）、北林谷栄（女優）。
1923 年（大正 12 年）
（出来事など）東京駅前に丸の内ビルデング（地上 8 階、地下 1 階）が竣工した。関東大震災が発生し、死者行方不明が 14 万 2,807 人全棟消失 57 万 5,394 戸の大惨事となった。京浜地区に厳戒令が敷かれ、朝鮮人暴動の流布が広がり、市民の自警団による朝鮮人虐殺がは

じまった。「文藝春秋」「エコノミスト」が創刊されたほか荷物運びに便利なリヤカーが流行した。松下電器具製作所が砲弾型の乾電池式自転車ランプを発売した。
（流行語）「流言蜚語」大震災のとき、いろいろのデマが乱れ飛んだ。それを信じたために悲喜劇が各所で起きた。「この際だから」震災被害を受けた人達が、復興を目指して立ち上がった時の合言葉だった。「厳戒令」「救護班」「自警団」「配給品」「暴利取締り」「避難民」「帝都復興」「玄米」「帝都復興」「玄米」「すいとん」「バラック」「仮建築」これらの言葉は大震災を契機によく使われた。
（生まれた人）三國連太郎（俳優）、大山康晴（棋士）、千宗室（茶道裏千家家元）、司馬遼太郎、佐藤愛子（以上作家）、三波春夫（歌手）、白井義男（プロボクサー）、渡辺美智雄（政治家）
1935 年（昭和 10 年）
（出来事など）湯川秀樹、中間子論を発表。戦前最後の第 16 回メーデー開催。同盟通信社創立。第 1 回芥川賞に石川達三「蒼氓」同直木賞に川口松太郎「鶴八鶴次郎」が受賞する。日本映画協会設立。貿易収支 17 年ぶりに黒字となる。
（流行語）「アンゴラ鬼」トルコのあんから地方産の鬼。純白の長い毛が高級毛織物の原料となるので、飼育が流行したが、飼いすぎて失敗するものが多かった。「いやさか」繁栄を祈る叫び声で、万歳と同じ。極端な神がかりの人々に用いられた。「喫茶店」明治時代からのコーヒーを飲ませる店はあったが、喫茶店の名が一般化し猛烈な勢いで増え、学生や文化人に愛好された。「新官僚」日本のファッション化に伴って、下級官僚のうち国家社会主義的な考えをもった一群をいった。「ハイキング」近郊に出かけ、徒歩で低山などを歩くことが流行しハイキングと呼ばれた。
（生まれた人）小澤征爾（指揮者）、野村克也（プロ野球選手）、赤塚不二夫（漫画家）、岡田真澄（俳優）、堺屋太一、大江健三郎（以上作家）、筑紫哲也（キャスター）
1947 年（昭和 22 年）
（出来事など）六・三制教育（新制中学発足）が開始した。日本国憲法が施行された。初の「経済白書」が発刊。古橋広之助が 400 メートル自由型で世界新記録を樹立した。最高裁判所が発足。国家公務員法、農業協同組合法、改正刑法（不敬罪、姦通罪が廃止）、敬察法（地方分校民主化）が公布された。共同募金が開始された。労働組合（私鉄総連、電産、国労、日教組、自治労連、全石炭など）の結成が相次いだ。戦後初の国際婦人デーが開催された。「鐘の鳴る丘」の放送が開始した。臨時国勢調査が実施され人口は 7,810 万 1,473 人であった。百万円宝くじが売出され、即日売り切れとなる。印刷用紙事情が極度に悪化し、雑誌の休刊が続出した。
（流行語）「赤い羽根」アメリカのコミュニティ。チェスト（共同募金）にならって 11 月 25 日から 1 カ月間、全国募金運動が行われた。「裏口営業」外食券食堂以外の飲食店が営業禁止になったが、表向きは閉鎖しながら裏口からこっそり常連客を入れて営業していた。「学校給食」GHQ の指示で食糧難で栄養不足になった児童を救うための全国の国民学校で開始

された。「鐘の鳴る丘」NHK ラジオドラマの題名で、戦後荒廃した人心を安らげてヒットした。「くん」六・三制の実施に伴って男女共学が徹底し、女教師が男生徒を「何々君」と呼んだことから女生徒が男生徒を「何々君」という呼び方が流行した。「集団見合い」戦争によって婚期を逸した男女のために東京都多摩川の丸子橋下で集団見合い大会を開始し、386 人（男女比は男 2、女 1）が参加した。「不逞の輩」吉田首相が新年の挨拶をした中で労働運動を者を指して避難した言葉で、労働組合は強く抗議した。
（生まれた人）星野仙一（プロ野球選手）、森進一、西郷輝彦、布施明（以上歌手）、尾崎将司（プロゴルファー）、南伸坊（イラストレーター）、立松和平（作家）。
1959 年（昭和 34 年）
（出来事など）皇太子がご結婚なされた。伊勢湾台風が発生し、死者行方不明者 5,101 人にのぼった。メートル法が施行された。NHK 教育テレビが開局した。皇太子ご結婚パレードが放映され、1,500 万人の方が視聴したという。
（流行語）「アフターサービス」耐久消費財を売った後、一定期間無料で修理などのサービスをするという意味の和製英語。「岩戸景気」神武景気を上回る大型景気を、天岩戸の伝説以来という意味で名づけられた。「カミナリ族」爆音を立てながら猛スピードでオートバイを走らせる若者たちのことをいう。「産業スパイ」梶山李之の小説「黒の試走車」から他産業に機密を盗むために送り込まれるスパイをいう。
「消費革命」経済白書のなかの言葉で家庭電化、生活の高級化、レジャー費の増大で消費支出の変化が産業界に影響するとしている。「消費者こそ王様」サンヨー電気の広告で「消費者こそ王様、これがサンヨーの信条！」からこの言葉が流行した。「ビート族」グループサウンズの音楽に乗ってゴーゴーを踊る若者達のこと。「私の選んだ人」清宮貴子内親王が 20 歳の誕生日の記者会見で「好きなタイプの男性は？」との質問に「私が選んだ人を見ていただきます」と答えたことから流行した。
（生まれた人）山口百恵（歌手）、渡辺謙（俳優）、榊原郁恵（タレント）。
1971 年（昭和 46 年）
（出来事など）今井通子がグランド・ジョラス北壁に登頂、女性の世界初の三大北壁登頂に成功した。第一銀行と日本勧業銀行が合併し戦後初の銀行大型合併となった。中国が国連に加盟した。地婦連が 100 円化粧品「ちふれ」をデパート、スーパーで売り出した。東京八王子で初のノーカーデーを実施した。
（流行語）「内ゲバ」内部ゲバルトの意味で学生運動諸派間の内部抗争を指した。「エンキリ」ニクソンアメリカ大統領の経済緊急対策のため、我が国の経済界は「ニクション・ショック」を受けた。4 カ国蔵相会議で 1 ドル 308 円に切り上げられ円の強さを知らされ、これを「エンキリ」と称した。「キャッシュレス」銀行のオンラインシステムが発達し、給料は銀行振り込み、支払いは小切手といったことを指す宣伝用語である。「省力」機械化によって人手を省くという農業用語である。「ノーカー運動」交通事故、排ガス汚染などの元凶である自動車をなるべく使わないようにするという運動。「一株株主」大企業に対する消費者の監視

を強めるために一株づつの株主になって、株主総会で発言すること。「百円化粧品」地婦連を主体とする消費者団体が作った百円の化粧品で「ちふれ」と名付けられた。「M 作戦」赤軍派の資金調達作戦で M はマネーとかアメリカのギャングのマフィアの頭文字といわれている。
（生まれた人）若乃花勝（大相撲力士)、井出竜也（プロ野球選手)。
1983 年（昭和 58 年）
（出来事など）サラリーマン新党や福祉等が結成された。熊本地裁八代支部で初の死刑囚再審「免田事件」で無罪判決がくだされた。東北大で日本初の体外受精児が誕生した。東京地裁ロッキード事件丸紅ルート公判で田中元首相に懲役 4 年、追徴金 5 億円の実刑判決があった。国立歴史民俗博物館が開館した。国債発行残高が初の百兆円台を突破した。
（流行語）「おしん」NHK 朝の連続テレビ小説「おしん」が驚異的な視聴率をあげて「おしんドローム」と呼ばれる様々な現象を生み出した。辛抱するという意味で「おしんする」という言葉も使われた。「3D 族」3D は若い女性の口癖「だって」「でも」「どうせ」のことで主体性と責任感に欠ける OL を批判して使われた。「カラス族」洋服から室内装飾に至るまでが黒が流行し、黒で全てを統一したファッションの女性が町にあふれた。彼女たちを呼んだ言葉である。「ジャパゆきさん」日本の風俗産業で働く東南アジア系の女性たちをからゆきさんをもじって言った。「ロンとヤス」ロンはレーガン大統領、ヤスは中曽根首相で、お互いに呼び合ったニックネーム。トップ同士の親密な関係を表現した。
1995 年（平成 7 年）
（出来事など）無人深海探査機「しんかい」が地球上で最深のマリアナ海溝チャレンジャー海淵の改訂（水深 10,911 メートル）に到着した。淡路島付近の深さ 20 キロを震源とする M7．2 の地震が発生し、「阪神・淡路大震災」と命名された。東京都内の営団地下鉄でサリン事件が発生しオウム真理教の麻原彰晃を地下鉄サリン事件に関する殺人・同未遂容疑で逮捕した。統一地方選で東京都知事に青島幸男、大阪府知事に横山ノック（山田勇）が当選した。40 都道府県の 93 年度分食糧費の公開総額は 52 億円で多くは官官接待に使用された。円相場が戦後初めて 1 ドル 90 円台を突破した。失業率は過去最高の 3．2%になる。発泡酒や地ビールが流行した。
（流行語）「ああいえばジョウユウ」オウム真理教団の広報マン上祐史浩広報部長は立て板に水のごとく喋りまくった。「カナリア記者」山梨県上九一色村の「サティアン」への強制捜査に、毒ガスに備えてカナリヤが携帯され、マスコミ最前線記者はカナリヤ記者と呼ばれた。「ライフライン」広義には供給処理施設、電気通信施設、交通施設など人間の生活や社会的な生活維持に直接した洗浄の建造物のことだが、一般的には上下水道、電気、ガス供給施設など救急処理施設と電気通信施設の狭義の意味に用いられている。「コマダム」普通のおばさんになりたくない 30 才代の女性のことをいう。東京自由ヶ丘がメッカで①フェラガモの靴②プラダのバック③マゴマダム（コマダムの子供）の三種の神器が必須条件とのこと。「官官接待」地方自治体が中央官僚を接待する悪しき習慣のこと。「安全神話」関東大震災

級の揺れにも耐えることを前提に設けられた高速道路の橋脚や新幹線の高架、中高層ビルなどは壊れることがないということであった。しかし阪神・淡路大震災で倒壊、崩落したため「安全神話が崩れた」と言われ非難された。

以上が明治８年から平成７年までの亥年の「出来事など」や「流行語」について、そのほんの一部を紹介させていただきました。拙文をご一読いただき誠にありがとうございました。

クイズの文字は、古代漢字の左が「喜」、右が「悦」です。いずれも「よろこび」と読みます。「喜」は神に祈るとき太鼓を打って歌い舞って神をよろこばすという読みとご馳走を高坏（たかつき）に盛って神に捧げよろこばす様子を表すという説があります。

「悦」は「はぎとる」を意味する「兌」と「心(忄)」の組み合わせで、心に抱えていた「しこり」や「こだわり」を脱ぎ去ったうれしさや楽しさを意味します。このことから御馳走を目の前にしたよろこびは「喜び」、健康について検査結果後のほっとしたよろこびは「悦び」がぴったり、花を見つけて心が癒されるよろこびを感じたときは「悦び」の方がしっくりすると思いますが如何でしょうか。古代感じって面白いですね。